

# 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	附属久里浜特別支援学校
-----	-------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	i padを活用し、市販のコミュニケーション支援・スケジュール管理・身辺処理技能の向上等のアプリケーションソフトを授業や行事で使用したり、タブレット端末を介して、パワーポイントなどのウィンドウズパソコン用ソフトを介して多様な教材を作成して授業等に導入・試行した。授業の記録や評価結果などは、校内ネットワークを活用し、サーバーなどにデータを蓄積し、教職員間で共有した。
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	副校長・主幹教諭・学部主事・研究主任で構成する教育課程検討委員会を組織し、幼児児童の実態に合ったカリキュラムの見直しを行うと共に、その結果を学部会や職員会議において共有し、新たなカリキュラムを日々の実践で検証した。
1-2-10	児童生徒の実態を踏まえた、個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導の計画状況	校内における実践研究の柱の一つに「事例研究」を位置付け、各学部において複数名の事例の実践研究を複数の教員で検証することで、個別およびグループでの指導の在り方、指導計画・支援計画の立案の仕方を繰り返し検証した。特に、指導計画や指導法に関しては、その必然性や根拠の明確化を日常化した。
3-1-4	保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況	在籍する幼児児童および保護者の中で、特に支援が必要なケースに対しては、教育委員会・障害福祉課・児童相談所・医療機関・福祉施設などの関係者と随時サポート会議を開催し、その都度必要な支援を明確にすると共に、各機関で役割を分担し対処した。
3-1-6	問題行動の発生状況	児童の問題行動としては、スクールバス内での不適応行動が1例あり、担任教員が行き帰りのバスに同乗する形で不適応症状の改善を図った。著しく養育能力に欠けた保護者に対しては、その児童を寄宿者に入舎させ、生活面全般での保護を行った。
3-2-8	児童生徒の生活習慣の定着や人格的発達の状況	自立活動の指導・生活指導・教科教育に準ずる個別の指導等、本校独自のカリキュラムを通じて、全幼児児童の生活習慣の定着や人格的発達に、教職員が一丸となって取り組み、全幼児児童の発達的変容を図ることができた。
5-1-4	危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	校内で組織している危機管理委員会において、地震津波などの自然災害や火災等緊急事案に適宜適切な対処ができるよう、マニュアルの見直しを行い、各種訓練を通じて教職員の役割分担の周知徹底を図った。地域の行政組織と連携して運営予定の福祉避難所に関しては、運用マニュアルの早急な整備が課題である。
6-1-1	特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	交流および共同学習は、地域の通常小学校と年6回の交流を通じて実施した。本年度は、地域の小学校の支援級に進学予定の幼児を対象に、並行通園という形態を通じて園児同士の交流だけでなく、教員間での交流にも取り組んだ。
8-1-1	授業研究の継続的実施など、授業改善の取組の状況	研究テーマに沿った授業研究だけでなく、一人一人の教員の授業力の向上を目指し、全教員が「スキルアップ研修」に取り組み、公開授業と事後授業検討会に参加した。検討会での指摘事項を受け、授業の改善を目指して、一人で何回も研究授業を行う教員もいた。こうした取り組みを通じて、徐々にではあるが授業の質が高まってきた。